

岸江信介・中井精一編

## 『地図で読み解く関西のことば』

(昭和堂刊、2022年4月25日)

中井精一

日本各地の方言は、東京一極集中や地域社会の衰退によって、変容を余儀なくされている。地域方言の変容や衰退は、今世紀に入りより顕著な姿を見せるようになって、沖縄や奄美地方では文化庁などが「危機的な状況にある言語・方言の実態に関する調査研究」及び「危機的な状況にある言語・方言の保存・継承に係る取組等の実態に関する調査研究」といった取組を行っている。

近畿地方中央部、特に大阪や京都を中心とした地域の方言は、長い歴史に裏打ちされなお存在感を示しているが、その衰退は否めない。本書は、そういったこの地域の方言に忍び寄る衰退と変容の危機感から実施した『近畿言語地図』（徳島大学日本語学研究室刊）の成果をもとにしている。

『近畿言語地図』は、本書の編者である岸江信介が、2010年から2015年にかけて、各地の公民館や地区センターなどに調査票を郵送し、回答してもらう「通信調査」によって得たデータをもとにしている。

近年、「関西弁」はマスコミやSNSでも注目され話題になることが多い。岸江信介は四国で、中井精一は北陸で、以前にも増して「関西弁」に強い関心が持たれていることを感じていた。関西弁全般については、真田信治監修（2018）『関西弁事典』ひつじ書房（編集委員：岸江信介、高木千恵、都築直也、鳥谷善史、中井精一、西尾純二、松丸真大）がある。本書は、『関西弁事典』に関わった研究者の多くを執筆陣に加え、以下の構成からもわかるように、言語地図から見えてくる「関西弁」の姿を伝えることで、その理解につなげたいという思いで企画

した。

本書の構成は、

〈コラム1〉共通語に深く浸透する関西弁

第1章 関西方言の特徴とその学びの方法（中井精一）

〈コラム2〉「早いなあ」から「おしまい」まで

第2章 あいさつ——関西地方のあいさつ表現（都染直也）

〈コラム3〉「まいどおおきに」

第3章 ありがとう——感謝表現のバリエーション（市島佑起子）

〈コラム4〉方言に現れる比喩表現——「ものもらい」って物をもらうと治るの？

第4章 病気とまじない——「ものもらい」の方言と民間治療法（塩川奈々美）

〈コラム5〉「しんどい」「えらい」「ずつない」ってどう違うの？

第5章 身体感覚の表現——疲れや辛さを表す関西の語彙（船木礼子）

〈コラム6〉「じぶん」ってだれのこと？

第6章 うち、あんた、われ、おたく——関西の自称と対称の世界（村中淑子）

〈コラム7〉あのおっさん、懲りんとまた行きよるわ

第7章 卑罵表現（西尾純二）

〈コラム8〉ハルは敬語か

第8章 敬語の表現——敬語形式の分布と地域差（中井精一）

〈コラム9〉昨日なあ、バイト行ってんやんかー

第9章 推量・推測と確認の表現（松丸真大）

〈コラム10〉「はよせえ」と「はよしい」ってどう違うの？

第10章 命令の表現——関西の命令表現の特色（高木千恵）

〈コラム11〉「散りよる」と「散っとる」って違うの？

第11章 動きや状態を表すことば——関西方言のアスペクト（津田智史）

〈コラム12〉「見やん」ってどこのことば？

第12章 打消しの表現——関西方言の打ち消し形式のバリエーション（鳥谷善史）

〈コラム13〉「行かれへん」と「よう行かん」って違うの？

第13章 可能の表現——可能形式の分布と地域差（大西拓一郎）

〈コラム14〉海路が運んだことば

第14章 から・ので——原因・理由を表す順接の接続助詞の地域差（峪口有香子）

〈コラム 15〉「赤い」は「あけー」や「あきゃー」とはならないの？

第15章 発音の特徴とその傾向 —— 移りゆく関西地方の発音（岸江信介）

である。

2020年春、私たちをとりまく環境は、大きく変化した。増加の一途をたどってきた観光客は激減し、外国人観光客の姿も新型コロナウイルスの猛威の前に見なくなった。観光やインバウンド需要に活路を見出そうとしたわが国や関西の各自治体の戦略は、見直しが迫られた。また集住や都市化といった密度の高い環境は敬遠され、新しい社会と個人の関係が模索さ続けている。コロナ以前に猛烈に進行した東京一極集中による方言の衰退と変容が、コロナ以後どのように推移するか注目される。そういった意味からも関西の人びととその社会、そしてその方言である「関西弁」への関心は、今後ますます高まることは想像に難くない。本書が、よりわかりやすく「関西弁」を知る伴侶なることを編者の一人として心から望みたい。